

バンクーバー便り4

バンクーバー時間：2023年5月11日(土)19時15分

日本時間：2023年5月12日(日)11時15分

私たち家族は、4月20日から5月4日まで一時帰国し、故郷の人達と嬉しい再会をしました。僅か4カ月間広島を離れている間に、物価が少し上がり、建設中のマンションが完成し、家屋がなくなり歯抜けもありましたが、広島が故郷であることに変わりはありませんでした。滞在が終わり広島からバンクーバーに着いた時、別のホッと感がありました。新しい環境に再適応するまでの期間は、通常、3~6カ月程度とされています。この期間は世界中どこでも、しかも(私の勝手な解釈ですが)いつの時代でも変わりません。例えば、仏教の百箇日は死別後に遺族が新しい環境に適応し始める時期でほぼ3カ月です。

医療、治安、政治的安定、インフラ、緑地といった項目に基づく「2022年版世界の住みやすい都市ランキング」でバンクーバーは173都市中第5位でした。このランキングは時代とともに変わるでしょうが、実際にバンクーバーで生活をする、物価はここ数年で2倍ほどになり、ラーメン1杯が1500円くらいしています。住宅事情はさらに酷く、ベイスメント付板張り2階建て家屋が数億円します。便り1でお伝えしたように、長い冬は雨ばかり、爽やかな夏は一瞬で終わり、恵まれた気候とは思えません。豊かな自然や便利な交通網はありますが、それにもかかわらず、確かに住みやすさを感じさせます。

なにがそう感じさせるのか、確信はありませんが、一つ思いつくことはカナダの多言語・多文化主義でしょうか。勿論、現在のカナダにも偏見差別や人権侵害は存在していますし、かつてのカナダでは先住民への虐待や太平洋戦争中の日系カナダ人の追放と資産没収など、数知れぬ差別問題がありました。日本でも人権尊重や差別撤廃は当然のことですが、カナダと日本の間には差別意識に幾分の違いがあるように思います。4, 5年前にバンクーバーを訪れた時、国際空港にでかかると「私達の社会で最も大切にしていることは相違です」というポスターがありました。LGBTQ、高齢者、就学就労困難者、精神障害者など、差別されがちな人との相違を受け入れ、相互に尊重するという目標に向けて明確で毅然とした姿勢がカナダにはあります。

多言語・多文化主義のカナダは、米国のメルティングポットとは異なり、モザイク国家といわれます。それは色、形、品質などの異なる大小様々な布が繋ぎ合わされて美しいパッチワークができあがるのに似ています。カナダの公用語は英語かフランス語ですが、家庭では継承語(出身母語 heritage language)も大切にされ bi- or tri-lingual が目指されています。また、カナダの小学校では、education の語源であるラテン語 educatio=educare(「大きくする」の意)+educere(「外に導き出す」の意)を実現すべく、子どもの個性を尊重して画一的な教育はされず、その子本来の能力が発揮できる教育を目的にしています。一方、日本では学校や成績の格差化(有名校、塾や習い事、成績番付など)と、教育や制服などの画一化(学習指導要領、髪の色からスカートの丈まで規制など)が共存しています。カナダでは建前の自由平等ではなく、モザイクでおきやすい差別を徹底的に排除するという強い姿勢のもとに、誰もががあるがままでいいという生き方を互いに尊重しあえる環境を実現しようとしていることが、生きやすいと感じさせているのでしょうか。さらにカナダの住みやすさには laziness もあるかもしれません。官僚や金融の作業はとにかく遅いので、全ての活動がペースダウンせざるを得ません。

多種多様な人種が織りなすカナダ文化は、果たしてその理想がどこまで達成されるのか見当もつきませんが、目標をかかげそれに向かって努力している分、一歩でも前進していると信じるほかありません。